



24 スリランカ ベースライン 道路事業(1)(2)

スリランカ経済成長の中心地において
道路ネットワーク構築に貢献

承諾額／実行額	74億7,900万円／72億1,700万円
借入契約調印	1993年8月、1997年8月
借入契約条件	金利2.3～2.6%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
貸付完了	2002年1月／2004年5月
実施機関	道路開発庁 URL: http://www.rda.gov.lk



本事業の目的

既存のベースライン道路を片側1車線(一部片側2車線)から片側3車線に拡幅するとともに、当該道路のリハビリ、構造物の建設・改修、交差点の改良等を行うことにより、大コロombo圏の円滑な交通輸送を図り、同地域の経済活動の活性化に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) 評価 b

本事業においてコロombo首都圏の道路を整備することにより、本事業対象道路における年平均日交通量の当初計画に対する実績値の割合は、事業対象道路の北端から0.83km地点で58.4%、2.0km地点で74.3%であることが確認された。ピーク時交通量の実績は設計基準交通量に対し本事業第1期対象区間で68%、第2期対象区間で30%であった。交通量実績が計画値を下回った要因は、1990年代後半から2000年代前半の郊外化政策により郊外からコロombo市内に出入りする交通量が一般的に伸び悩んだことが挙げられる。他方で、本事業により整備された道路は、市内と郊外住宅地との間を結ぶ幹線道として機能しており、全区間で路面性状(平坦性、ひび割れ等)が大幅に改善され、車両走行費の節減効果をもたらしていると判断される。また、受益者調査では、調査対象住民の83%より本事業実施は生活環境改善への効果があったとの意見が寄せられている。よって、本事業の実施により一定の効果発現がみられ、有効性は中程度である。

ベースライン道路の位置(大コロombo圏)



本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) 評価 a

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。本事業は、公共投資計画(1991-95年)に基づき計画されており、事後評価時点では中期歳出枠組(2006-08年)において、道路整備事業が重視されている。

事業実施の経済性(効率性) 評価 b

本事業は、事業費については計画を下回ったものの(計画比87%程度)、期間が計画を大幅に上回ったため(計画比159%程度)、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延の主な要因は、着工後に地下埋設物(上下水道管、通信ケーブル、電線)が新たに発見されたこと、当該埋設物移設のために関係機関との調整に時間を要したこと等が挙げられる。

今後の展望(持続性) 評価 a

本事業は実施機関の能力および維持管理体制ともに問題なく、高い持続性が見込まれる。

結論と教訓・提言

本事業の評価は高いといえる。今後においては、追加的に交差点の改良や交通管制設備の設置を行いつつ南方への延伸を行い道路ネットワークを拡充すること、また、道路周辺住民への交通安全教育、信号付きの横断歩道の設置、交差点の立体化の検討等を行うこと等が望まれる。

開発途上国専門家の意見

本事業は、スリランカの都市幹線道路整備の好例である。移転住民は新たな転居先の生活に満足しており、また、円滑な道路交通が実現したこと等が影響し、本事業対象道路沿いの土地の資産価値は向上した。

専門家の氏名: Mr. Kananke Arachchilage Jayaratne (NGO) アジア工科大学修士(居住環境)。現在、セバンタ アーバンリソースセンター(NGO)名誉会長。専門は都市の居住環境整備・貧困緩和・コミュニティ開発等。